

総合診療って何？

総合診療科 久保 徳彦

今回は、最近テレビ等で目にするようになった「総合診療」についてです。

入局した頃は、総合診療科って何？そんな科あるの？という人もいましたが、最近やっと世間に認識されてきたことが嬉しく感じられます。そんな総合診療について紹介します。

総合診療が生まれた背景

世の中の技術の進歩と共に、医学も急速に進歩しました。新しい検査や治療が開発されると同時に、医学は細分・専門化し、学問を追及すれば医療問題は解決できると思われていましたが、必ずしも解決できないことが分かりました。

医療機関の外来には、専門的治療を要する稀な疾患から頻度の高い疾患まで、様々な疾患の患者が訪れます。その疾患が担当医の専門領域や興味をひく場合は医師と患者共に幸福ですが、そうでない場合は適切な対処をされないこともあります。また、高齢者のように複数疾患をもつ患者の場合、専門臓器しか診てもらえないために他の疾患については他科や他院を駆けもちで受診しなければならず、特に大病院では患者を全人的に診ることが少なくなりました。

これらの問題が強く現われたアメリカでは、20世紀初頭に全医師の5割を占めた一般開業医が65年間で2割まで減少し、その後もさらに減少する勢いでした。この急速に進む専門化に多くの人が危惧を抱き、医学的問題を幅広く扱い心理社会的側面に配慮できるプライマリ・ケア医の必要性を訴え、1969年に総合診療科が20番目の専門科として設立されました。

日本における総合診療の歴史

日本でもアメリカ同様の医療問題が現われたため、1976年に天理よろづ相談所病院に日本初の総合診療科が設置されました。1978年には佐賀大学にも設立され、以後、全国に続々と総合診療科が設立されました。

総合診療の基本理念

①臓器別ではない対応をする。②人を生物学的に診るだけでなく、心をもった人間として診るという精神・心理・社会的背景を考慮する。③患者を終生に渡って診る。④予防医学の重視。⑤外来診療の教育を重視。

以上5項目が挙げられ、臓器別専門科のどこにも属さない病態、不明熱等の未診断例、高齢者に多い複数疾患例、予防医学、終末期医療といった分野において、総合診療の役割は非常に重要とされます。内科疾患は臓器によらず二次レベルまで扱うことが前提で、外科、小児科、精神科等の分野はプライマリ・ケアができることが目標となりました。

プライマリ・ケアについて

1996年にアメリカ科学アカデミーが、プライマリ・ケアとは「健康問題の大部分に対処でき、かつ継続的な友好関係を築き、家庭及び地域の中で責任を持って診療する臨床医によって提供される、総合性と手軽さを特徴とするヘルスケアサービス」と提唱しました。つまり、国民の健康問題に対し、総合・継続・全人的に対応する地域の保健医療福祉機能といえます。

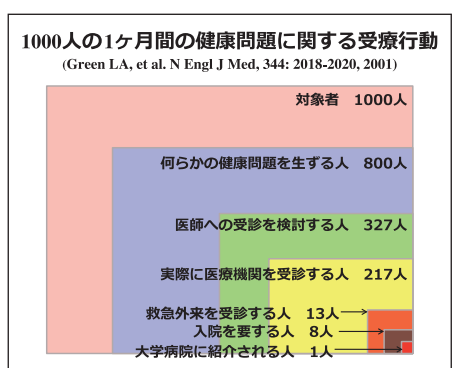
身近な医療として考えた場合、病気について何でも相談できる医療者の存在は大きなものです。プライマリ・ケアは簡単に言うと「身近にあり、何でも相談できる総合的な医療」となります。

総合診療医と臓器専門医

先進医療を担う臓器専門医と、地域医療を担う総合診療医が上手く連携を取れば、患者だけでなく医師も良い結果を得ることができるでしょう。

図を見てみましょう。1000人の対象者のうち、何らかの健康問題を生ずる人は800人、医師への受診を検討する人は327人、実際に医療機関を受診する人は217人、救急外来を受診する人は13人、入院を要する人は8人、大病院に紹介される人は1人でした。

何でも専門性を議論すれば、守備範囲は狭くなります。理想的な総合診療医は、疾病に対して広く深い知識を持ち診療できる医師ですが、そのような医師はきわめて稀でしょう。ただ、地域での役割を考えれば、総合診療医が担う疾病は、かなり広範囲になります。図にある地域の209人(217人-13人)の健康を総合診療医がしっかりと守ることが、その先の高度医療を担うべき医療機関を正しく機能させると思われま



総合診療の特徴

問診と身体所見を手掛かりとしながら推理し、検査を組み合わせで診断します。広く深い医療知識と身体所見を正確にとる技術が必要とされます。内科以外の科から内科疾患の相談を受けることがあります。地域の医療機関で高いニーズがあります。複数疾患をもつ患者の場合、主治医機能を持つ総合診療医の役割は、今後極めて重要なものになるでしょう。

総合診療の問題点

しかし、問題もあります。総合診療といっても、総合病院での総合内科的診療を行う施設や、僻地医療を含む家庭医的診療を行う施設、救急・集中治療の診療を行う施設があり、各医療施設での態様は様々です。どの疾患をどの程度まで総合診療科が扱うかについては施設により異なり、特に内科系各専門科とのルールが出来上がるまでには、調整の時間が必要です。

最後に

当院の総合診療科は平成21年4月に設立され、一般内科の初期診断・治療を行っています。主に、日常よくある内科疾患や臓器専門医を必要としない疾患に対応しますが、どの診療科を受診したらよいか困っている患者を診察し、適切な助言や紹介を行い、各診療科と連携を取りつつ全人的な診療を行っています。

また、当院は平成25年より県内では大分大学に次いで2施設目の日本病院総合診療医学会認定施設となっただけでなく、平成26年7月から診療経験豊富な児玉真由子医師を迎え、充実した診療を行えるようになりました。これからも県北最大の総合病院の窓口として、大分の総合診療といえば別府医療センターといわれるように努力していきたいと思ひます。